

**平成31年度 調布市立八雲台小学校 学校経営計画**

<b>学校教育目標</b>	◎よく考える子 (問題を発見し、共に解決することのできる子ども)	◎思いやりのある子 (命の大切さを自覚し、互いのよさや違いを認め合うことのできる力を身に付けた子ども)	◎健康な子ども (自分から心や体を鍛え、進んで運動に取り組む子)
---------------	-------------------------------------	--	-------------------------------------

**目指す学校像(ビジョン)**  
 \*【目指す学校像】「一人一人の児童が安心して通うことができる学校」  
 ◎日本国憲法等に示された人権尊重の精神を基調とし、平和を愛し、地域社会や国際社会において信頼と尊敬を得られ、徳・知・体の調和のとれた成長と、国際化、情報化の進展など、社会の変化に主体的に対応できる力を身に付けることを目指して、調布市教育プランに沿って、上記の目標を定め、その達成を目指す。  
 将来の日本及び国際社会の担い手として、児童に豊かな人間性・社会性を育成し、確かな学力の定着を図り、運動に親しませるなど生涯を健康に過ごすための素地を培う。そのためには、児童一人一人が「学校に来ると安心する。」と思えるような学校づくりを目指したい。学校は児童にとって「楽しい所」であるべきである。ただし、「楽しい」というのはただ面白おかしいという意味ではない。自分なりの目標をもって真剣に学習や学校生活に取り組ませ、困難を乗り越え、達成感を味わわせたい。そして、その経験を通して、児童一人一人が自己の成長を実感できるような学校を目指していきたい。  
 (経営理念) ◎子どもたちに …「生きる力」の基礎を ◎教職員に …「チームで働く喜びとやりがい」 ◎保護者・地域に …「学校への信頼と安心を」

**本校の現状と課題**  
 ◎生活面では、基本的な生活習慣の定着や規範意識の育成の取組が効果を上げてきた。一方、自分自身の気持ちをきちんと相手に伝えることができず人と関わるスキルが未熟な児童も見受けられ、自己肯定感・自尊感情の育成に課題があり、いじめの様相や不登校傾向の状況が出現している。  
 ◎学力面では、全体として基礎的な知識・技能についての定着は良好であるが、活用・応用や思考力の育成に課題がある。また、個々の児童を見ると、学力分布の2極化傾向があり、下位層の児童の学力向上が課題である。このため、学校全体での授業改善の取組が不可欠であり、新学習指導要領の目指す理念を実現しようとする取組が求められる。  
 ◎体力や健康面では、基礎体力の向上と、特に運動に対する意欲の向上と心身の維持管理意識向上が課題である。  
 ◎教員の一人一人の指導力・授業力を高め、その上で組織として対応する組織力の向上が課題である。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	学校関係者評価委員会 評価
学力向上	◎確かな学力の定着 基礎的な知識・技能の定着を基盤として、思考力・判断力・表現力を育成し、確かな学力を定着させる。教員の授業力の向上を図る。	◎外国語授業の取り組み強化と「確かな学力」育成	・外国語授業の交換授業による取り組み、校内研究に「英語」を取り上げる。 ・基礎的・基本的な知識・技能の定着（習熟度授業の改善・個に応じた指導 朝学習の取り組み 補習） ・家庭学習の充実 ・話し合い・情報交換などを活発化する「共有化」	・英語教育はとても重要となると思われ、力を入れていっていただきたい。
	～児童中心の授業の創造～ ～主体的・対話的、深い学びの創造～	◎思考力・判断力・表現力を育成する授業	・地域人材・ICTを活用した授業の推進、UDの視点を生かした授業。 ・読書活動の推進 ※朝読書の設定	
		◎次期学習指導要領の趣旨を踏まえた準備を進める	・新指導要領の趣旨に基づいた実践を増やす。 ・できることから指導計画の作成に取り組む。	
健全育成	◎心の教育の充実 児童相互の良好な人間関係を確立させ、自他を尊重する心と態度の育成を図る。	◎特別支援教育の推進	・交流・共同学習の推進（校内、校外）※学年毎に計画 ・関連機関との連携※すこやか、相談所、巡回（かにやま教室） ・障害の有無にかかわらず共に学び合う活動を推進	・先生同士の関係は大変良好であると思われる。
	～互いの違いを認め合う、自分自身を大切にすること教育～	◎規範意識を育てる全校的な取組の充実	・「八雲台スタンダード」の指導徹底。保護者との共通理解を進める。 ・差別や偏見、いじめを許さない指導（いじめ対策委員会）  ・特別の教科「道徳」の充実を図る。特に「他者理解」の授業を重点化	
		◎特別な支援、不登校傾向児童の理解と対応	・個別指導計画の活用 ・校内委員会による情報の共有、具体的な支援の実施 ・学習ボランティアや支援ボランティアの活用を図るため、学校支援地域本部を立ち上げ運営をする。	
健康・体力づくり	◎体力向上、健康教育の充実 生涯を健康に過ごすための素地を育成する  ～運動の楽しさを味あわせる～	◎体育授業の改善	・運動能力テストを踏まえた全校的な取組を具体化する。 ・コーディネイトレックを取り入れた授業を全校で実施し、体幹を鍛える。 ・リビアン・バリンピアン、フラットを招いた授業を積極的に行う。	
		◎「いのちの教育」活動の充実	・いのちと心の教育月間の取組を充実させ、「命の授業」の蓄積を図る。 ・「世界の料理」等、給食と連携した食育を推進する。 ・校内外の事故やけがを減らす取組。事故発生時の振り返りを徹底し、事後指導に生かす。	
		◎運動の日常化	・全校児童が休み時間には外遊びを行う。教員もできる限り外へ出て一緒に過ごす。 ・各種運動旬間（ランニングタイム、なわとび）の計画的な設定と実施。	
保護者・地域との連携	◎地域の教育力・地域の人材を生かした教育活動の展開 地域の人材を生かし、地域の伝統や人々に触れさせ、地域への愛着を育てる。共に子どもを育てる意識を保護者・地域と共有する。	◎PTA、地域健全育成組織、中学校、近隣小学校、幼稚園・保育園との連携を推進する。	・PTAと協力して、PTA 活動の任意加入制、だれでも参加できるPTA 活動を推進する。 ・地区協議会と連携して、地域防災訓練の実施。避難所運営に関するマニュアルの実用化の準備。 ・学校開放委員会、健全育成委員会、地区協議会などと連携した、地域のお祭りなどの行事の開催。教員が年間に最低1回は参加できるように働きかける。 ・小中連携活動として、小中連携特別支援連絡会を行う。中学校進学への準備をより一層推進する。  ・学校支援地域本部の立ち上げと活動の道筋をつけ、地域人材の活用を盛んにする。	・地域行事に関して大変協力的です。ぜひ、続けていただきたいとおもいます。
		◎開かれた学校づくりをさらに進める。	・調布市HPの改善に従い、学校HPの更新の頻度を高め、児童の様子がよく分かる内容を工夫する。 ・学校評議員からの意見を集める機会や方法を工夫していく。会議の前に意見を求めたい項目を提示する。 ・学校関係者評価委員会から、学校経営に関わる意見を求めるために、事前に学校経営計画や経営方針を提示し、会議で効果的に意見交換ができるようにする。 ・学校評価の経年比較を行い、その結果を次年度の学校経営計画や教育課程の編成に生かすようにする。	
		◎異学年交流や特別支援学級・学校と通常学級の交流及び合同学習を進める。	・特別支援学級と通常学級の担任が定期的交流について打合せ相談できるような時間を設定する。 ・学校行事では、原則共に活動できるように進める。教科の学習でも可能な場合があれば一緒に行う。 ・調布特別支援学校との交流、副都庁交流の活動を確実に行う。	
特色ある教育活動	◎豊かな情操と温かい人間関係を醸成する教育活動 縦割り活動や異学年交流、合同学習等を充実させ、思いやりのある行動を意識づける。	◎リビック・バリンピック教育推進校として学習に取り組む。	・東京都特別支援専門性向上事業を活用して、年間を通して、調布特別支援学校の教員からの支援・指導を受ける。  ・「世界の料理」における各国大使館と協力した国際理解の授業を学期に1回以上行う。今年度は協力可能な国を取り上げて実施していく。 ・バリンピス、リビアン、外国人ゲストティーチャーを招いた授業を実施して、人との関わりの中から学ばせる。	・リビック・バリンピック開催はもとより、その後も続けていただきたい。